

1970 年度学会賞受賞作品・授賞理由

◆石川賞(計画設計部門)「広島市基町・長寿園団地計画」

長松 太郎(広島市助役)

広井 正路(広島県土木建築部次長)

〈選考理由〉

広島市の原爆復興都市計画事業は戦後 25 年に互り、果敢に推進され、市街地は近代都市として新生されてきたが、最後まで残された課題は基町一帯の公園予定地に建てられた最後の応急住宅、引揚者住宅とこれに介在する不法建築群。さらにこれらと一体をなして太田川河川敷に密集する不法占拠住宅群の処理であった。

本計画はこの課題の抜本的解決を図るため策定されたもので、その雄大な計画は現に着実に事業に移され進行中のものである。本計画は単に街路公園の整備や河川敷の整備を図るだけでなくこの地域一帯に長年月居住する多数の市民に良好な住宅と生活環境を創出するものであって、多年懸案の原爆スラムを解消し、大公園を生みだし、広島市の戦災復興事業の完成に大きな寄与を果すとともに、市街地環境整備のあり方、都市中心部の住宅のあり方を指示する画期的都市再開発の総合計画として高く評価される。また、本計画の実施に当っては街路、公園、下水道、区画整理などの都市計画事業のほか、河川整備事業、住宅地区改良事業、公営住宅建設事業、住宅公団、住宅供給公社による住宅建設事業などの総合的な共同事業として行なわれているものである。

以上のように、本計画は戦後の原爆復興都市計画事業として、諸般の困難な条件を克服して、事業の遂行に寄与するとともに、その計画の規模、内容と事業の実施方法においてすこぶる卓越したものである。さらに、今後の都市再開発に寄与するところ膨大である。

ここに本計画の策定にあたり、中心となって推進された長松太郎氏、広井正路氏に石川賞を贈るものである。

なお、上記2氏のほか、昭和41年度石川賞受賞者である大高正人氏(現大高建築設計事務所所長)は本計画地区の設計計画を担当し、卓抜した計画をまとめられ、その業績は頗る大であったことを付記する。

◆石川奨励賞(論文調査部門)「生活環境施設整備のための社会的選好関数の研究」

梶 秀樹(東京工業大学助手 工博)

〈選考理由〉

本研究は、本学会の昭和45年度学術講演会において発表された論文である。

その目的は、数学的モデルを用い、公共施設に対する行政投資によって都市の生活環境の整備を実現してゆく場合に必要とされる総合的な環境評価の尺度、すなわち投資すべき施設の適地を選定し、重点的な投資対象を見つけ、さらにその投資効果を判定するための環境評価尺度を設定することを目的としている。

研究の方法としては、地域生活環境に対する住民の満足感、不満感という住民意識を媒介として総合的環境評価尺度を定義し住民満足感の実態調査結果に対し因子分析法を用い各種の環境条件についての住民の満足度に共通する価値基準を抽出し、さらに総合的環境評価尺度と物的環境条件との関係を重回帰分析によって計量的に求めている。

以上のように、この研究は最近行なわれつつある計画の科学化、計量化の一方法を示したものであり、未だ方法論としては細部についてなお研究の余地が残されているとはいえ、従来の恣意的な部分の多い計画の方法論に計量化による科学的手法を加えようとする意欲的な秀れた研究であり、都市計画学の新しい発展に大きく寄与するものと考えられる。

また筆者は、本研究と関連した論文「住民意識よりみた生活環境整備の方法に関する研究」により学位を授与されており、今後さらにこの方面での研究が継続され、より理論化が進められることを期待して、ここに石川奨励賞を贈るものである。

◆石川奨励賞(論文調査部門)「人の発生交通を中心とした諸都市活動の相互関連について」

黒川 洸(建設省建築研究所 工博)

〈選考理由〉

本研究所は本学会の昭和45年度学術講演会において発表された論文である。都市計画において都市交通計画の分野と他の計画分野、特に土地利用計画の分野との整合性を図ることは、最近大きな課題として取り上げられており、その解明のためには、定量的な手法を多く導入する必要がある。本研究では、この問題にアプローチするために、現在の諸都市活動の相互関係を解明することを目的として、交通については人の発生交通を取り上げ、都市活動を表わす指標については土地利用計画で基本となるもの、すなわち、夜間人口、昼間就業者数、宅地面積、建物床面積などを取り上げ、広島都市圏における調査資料を用いて、それら2者の指標間の相関分析を行ない、一般に用いられている指標相互の関係を明らかにしている。

以上のように、この研究は都市交通計画の立案方法を確立するための一助として、諸都市活動を示す指標相互間の結びつきを明らかにしてはいるが、あくまでも現時点でのものであり、また、その普遍性については、今後の検討がなお必要である。とはいえ、従来極めて不明確であった人の発生交通と人口や建物床面積などの指標との関係を明確にし、計画をたてる際の推計のチェックを行なう方法を明示した意義は大きく、都市計画の新しい発展に大きく寄与するものであると考えられる。また、筆者は本研究と関連した論文「都市における人の発生交通に関する研究」により学位を授与されており、今後さらにこの方面での研究が継続され、より理論化が進められることを期待して、ここに石川奨励賞を贈るものである。